

フェイスブック(FB)

【セクター】 通信サービス

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大のソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)を運営する企業です。「フェイスブック(Facebook)」、写真共有SNSの「インスタグラム (Instagram)」、メッセージアプリの「メッセンジャー(Messenger)」、「ホワットスアップ(WhatsApp)」などを運営して、中国を除く世界のSNSサービスで圧倒的なシェアを保有しています。また、仮想現実技術の「オキュラス(Oculus)」も展開しています。売上の50%を米国・カナダが占め、98%を広告収入が占めます(17年12月期)。

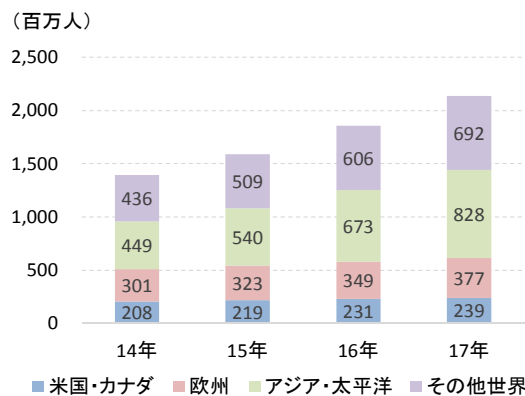
【業績】 (単位: 売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%)

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
16年12月期	27,638	10,188	3.49	0.00	20.5	19.7	91.1
17年12月期	40,653	15,920	6.16	0.00	25.6	27.2	88.0
18年12月期予想	55,438	24,692	8.12	0.00	32.2	24.8	-

※EPS: 1株当たり利益、DPS: 1株当たり配当、BPS: 1株当たり純資産、ROE: 株主資本利益率 (出所) BloombergデータよりSBI証券が作成

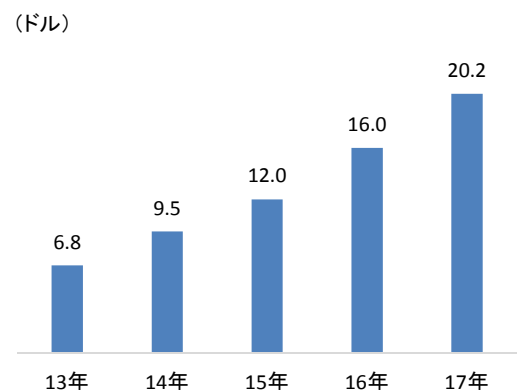
【主要指標】

図表1 月間アクティブユーザー数



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 ユーザー当たり売上高



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

SNSはネットワーク効果(潜在的な顧客にとっての物やサービスの価値が、既にその物・サービスを利用している顧客の数に依存すること)が大きいことから、同分野で同社に追いつくのは非常に難しくなっていると考えられ、これが同社に質の高い利益成長を期待できる根拠となっています。足もとで4割を超える売上の伸びは、SNSが広告メディアとして認められたことによる広告単価の上昇が牽引し、さらに「インスタグラム」事業など「フェイスブック」以外の収益化の進展が加わったものです。

【見通し・注目点】

18年3月に大規模な個人データの流出が発覚し、これに対する対応から業績の伸びが鈍化する見通しです。18年4-6月期のガイダンスで、年後半の売上伸び率は桁台後半の%ポイント分低下するとし、一方18年12月期の営業費用は前年同期比50~60%増の見込みとしました。また、19年12月期についても、費用の伸び率は売上の伸び率を上回る見通しとしました。コンセンサス予想によると、18年12月期EPSは前年比32%増の8.12ドル、19年12月期は同17%増の9.48ドルが見込まれています。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 18/10/10)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。